

東京多摩地区私国立中入試概況

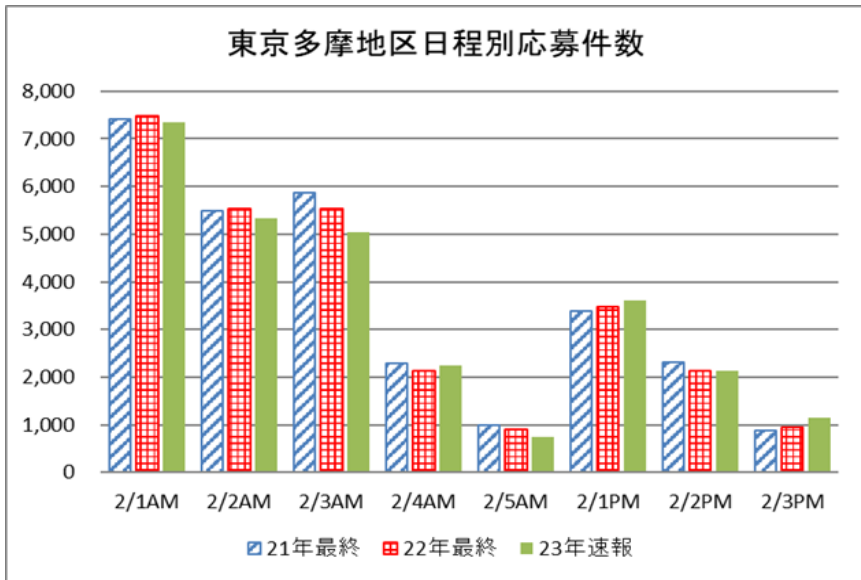
1. 概況 都心志向の影響が強く、応募総数は今年もやや減少

今年の郡部を含む多摩地区の公立小学6年生(義務教育学校を含む)の児童数は約34,700名で、昨年より約500名減っています。1月までに実施される帰国入試を含めた、2月28日現在の中学受験の応募総数は私立、国立、公立一貫校の合計約30,000名で、昨年最終より約600名減りました。コロナ禍対応の追試や追加の入試を行う学校などがあり、今後その分が上乘せされますが、昨年最終には届きそうもありません。昨年に続いての減少ですが、23区では増えていますから、都心志向の強まりが

理由でしょう。また、多摩地区は有名大学の附属校が多いのですが、今年は全体的に人気が一段落していることも影響しています。

1月末の東京都の発表では、コロナ禍で減少傾向だった東京都の人口は増加に転じ、増加が目立ったのは江東区、豊島区、新宿区などだと報じられていますから、やはり多摩地区よりも都心志向で、それが学校選択にも表れています。2月28日現在の公表校のみですが、実際の受験者数は21,900名弱で、昨年最終の約22,800名より約900名減っています。やはりスライド合格などを含まない合格者数は約9,200名で、昨年最終の約9,400名より約200名減っていて、応募者数の減少を反映して平均倍率が少し下がりました。やや入り易くなったようです。

上のグラフは日程別の3年間の応募者数比較です。応募総数では2月1日午前が今年も最多ですが、昨年よりも少し減っていて、2日午前、3日午前も減っています。3日午前約500名、約9%の減少です。4日午前は少し増えたものの、応募総数が少ない5日午前も少し減りました。午後入試は1日午前が約4%増加、2日午後は昨年並み、応募総数が少ない3日午後も増え



ています。減少した午前入試に対して午後入試は増えた日程もありますが、こうした点も、「高い志望順位の学校は都心部、併願校は地元」といった学校選択志向の表れでしょう。

今回は、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子として合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。各グループの学校はグラフの下に一覧で示しています。

男子は今年も最難関のAグループが一番少ない応募状況で、昨年に続いて今年もやや減っています。早

稲田実業と明大明治の2校しかないので仕方がないでしょう。昨年はBグループとCグループの応募者数がほとんど同じでしたが、今年はBグループが約10%減って、Cグループは若干増えています。Dグループは約28%と大幅に増えました。Eグループは半減です。Eグループの半減については、23区のように人気が上がって難化したケースの影響ですが、もともと学校数が少ないことから影響が大きく表れています。

女子もAグループが最少で、やはり今年も応募者が若干減っています。最多はBグループで昨年と同数、Cグループは約16%減少、Dグループは大幅に増加、Eグループは昨年より減っています。男女ともDグループが増加しているのは、併願の押さえの学校選択が増えている影響でしょう。

以下、各校の入試状況を見ていきます。なお、都立の立川国際、南多摩、三鷹、武蔵高附属は、公立一貫校のPDFをご覧ください。

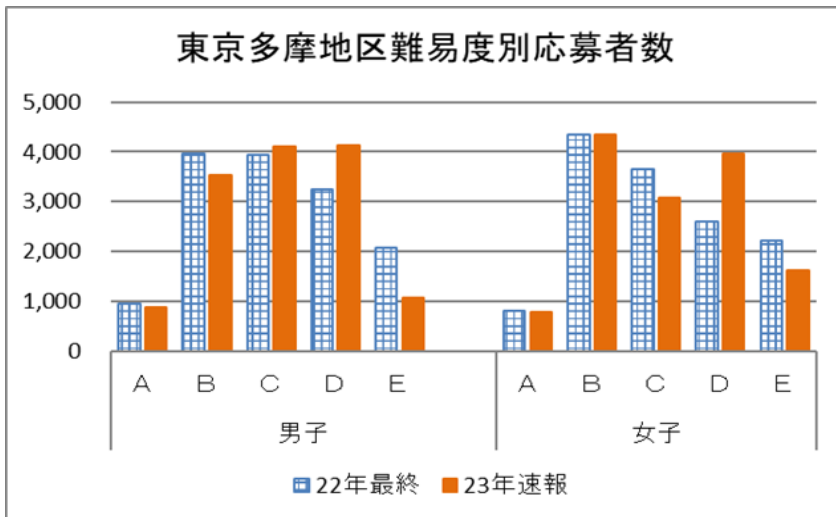
2. 男子校・女子校

まず男子校から。桐朋の応募者数は、一昨年は2月1日午前の1回が前年並み、2日午前の2回が減少、昨年は1回、2回とも減少していましたが、今年は1回、2回とも増えています。人気が戻ってきました。実際の実験者数も増えましたが、合格者数は逆に絞っています。合格最低点は1回が昨年並み、2回は上がっていて、出題内容との関係はありますが、1回は昨年並みの難度だったものの、2回は少し難化したようです。

明法は国際理解、進学GRIT、サイエンスGEの3コース制です。高校募集は共学化から4年目ですが、

中学募集は男子校のままで、小規模な入試です。今年は2月5日午前の入試を取りやめ、5日午後入試は4日午前に移して定員配分も見直しました。各回次合計の応募者数は増えて、もう少しで小規模を脱するところまで増えています。合格最低点は一部昨年より上下が目立つ回次もありますが、得点分布の影響が大きく、難度面ではあまり変化がなかったようです。

高校が併設されていないサレジオ(小平)も小規模な入試の学校です。今年も小規模で、難度もあまり変わっていないようです。



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で多摩地区私国立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…明大明治・早稲田実業
- B…吉祥女子・成蹊・中大附属・帝京大学・桐朋・法政大学
・明大中野八王子
- C…桜美林・晃華学園・穎明館・工学院大附属(特待)・創価
・東京学芸大小金井・東京電機大・ドルトン東京学園
・八王子学園(東大医進)・明治学院
- D…大妻多摩・共立女子第二・工学院大附属(一般)・聖徳学園
・玉川学園・多摩大聖ヶ丘・東京純心女子・桐朋女子
・日大第三・八王子学園(一貫特進)・武蔵野大学・明星(特選)
・明法(サイエンスGE)
- E…駒沢学園女子・国立音大・啓明学園・サレジオ(小平)
・白梅学園清修・自由学園男子部・同女子部・帝京八王子
・東海大菅生・東星学園・日体大桜華・八王子実践・藤村女子
・明星学園・武蔵野東・明星(総合)
・明法(進学GRIT・国際理解)・和光

女子校は吉祥女子から。一昨年は前年まで実施していた2月4日の3回を廃止した影響で敬遠傾向が出て、1日午前の1回、2日午前の2回とも応募者数が減りましたが、昨年、今年と1回、2回とも増加が続いて人気が上がっています。合格最低点は1回が昨年並みで難度に変化は見られませんが、2回は受験者が増えたのに対し、合格者は少し絞ったため上昇、少し難化したようです。カトリック校の晃華学園の各回次合計の応募者数は、一昨年は前年に続いて増加、昨年は減少し、今年は小幅ですが増加しました。増加の中心は2月1日午後の2回で、1日午前の1回と3日午前の3回は昨年並みです。合格最低点は1回が少し下がっていますが、出題難度の関係でしょう。2回と3回は昨年並みですので、全体的には難度に変化はなかったようです。

大妻多摩は一昨年から国際教養、総合進学の2コース制になっています。今年は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しています。各回次合計の応募者数は、一昨年は少し増えていましたが、昨年は減って、今年は再び増加、隔年的な変化です。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は2月1日午前の総合進学1回が上がったほかは昨年並みです。総合進学1回はやや難化したかもしれません。他の回次の難度は昨年並みでしょう。共立女子第二は2月1日午後のサイエンス入試を取りやめ、4日午前に2科の3回を新設しました。サイエンス入試は理科実験のユニークな入試でしたが、定着しませんでした。各回次合計の応募者数は、一昨年まで3年連続で増えていましたが、昨年は少し減り、今年は再び増えています。ただ、実際の受験者数、合格者数は昨年並みで、2月1日午前の4科と適性検査型の合格最低点が下がっていますが、出題内容との関係でしょう。他の回次は昨年並みですから、全体に難度は昨年並みだったようです。

桐朋女子は曜日の関係で12月の帰国生入試の日程を前倒しにしました。各回次合計の応募者数は一昨年は前年並み、昨年は少し増えて、今年は減っています。実際の受験者数も少し減っていますが、合格者数は昨年並みです。2月1日午前のA(口頭試問)や1日午後の英語型は合格最低点が公表されませんが、2日午前の記述型は昨年並み、2日午後のB入試は下がっています。全体的には少し入り易くなっているようです。

白梅学園清修は一部の募集定員を変更しています。

各回次合計の応募者数は昨年まで増加が続いていましたが、今年は少し減りました。実際の受験者数も減っていて、合格者数も減っています。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、難度面はあまり変わっていないようです。

東京純心女子は小規模な入試の学校です。今年は各回次の定員配分が変更されました。一昨年は前年に続いて各回次合計の応募者数が減っていましたが、昨年は特待入試の新設で増加、今年は再び減っています。合格最低点は上下が見られる回次もありますが、得点分布の関係でしょう。難度に変化はなさそうです。

藤村女子は、英語選択を取りやめて適性検査型の日程変更、ゲーム感覚で思考力を測るナゾ解き入試の回数を減らし、日本語リスニング入試を新設、日程ごとの科目選択の変更など、多くの入試変更点がありますが、全体的に単純化した変更です。昨年は各回次合計の応募者が増えましたが、今年は減少、今年も小規模な入試でした。合格最低点は、本稿執筆時点で未公表ですが、難度はあまり変わっていないようです。

駒沢学園女子は2月3日午前の入試を6日午前に繰り下げ、一部の入試で科目を見直すなどの変更がありました。同校も小規模な入試ですが、昨年、今年と各回次合計の応募者数は増えて、人気を上向いてきました。合格最低点は上下が見られる回次もありますが、不合格者が少ないことから、難度に変化はなさそうです。日体大桜華は特に入試に変更はありませんが、本原稿執筆時点で入試結果未公表でした。

3. 男女校

付属カラーの強い学校から見ていきます。早稲田実業は、一昨年は男子の応募者が減少、女子もやや減っていて、昨年は女子が前年並み、男子は少し減少と、男子の敬遠ムードが見られました。昨年からの教育システムの変更で、男子の定員を削減したことが影響したようです。今年も男子は厳密には減っていますが、昨年並みと言ってよい応募者数で、女子は昨年とほぼ同じ応募者数でした。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、もともと高難度ですから、男女とも昨年とあまり変わらない難度だったようです。

明大明治は、一昨年は2月2日の1回、3日の2回の男女とも応募者数は概ね前年並み、昨年は1・2回ともに減っていました。今年は1回が男女とも昨年並み、

2回は男女とも少し減っています。合格最低点は1回が男女とも少し上がっていて、出題内容との関係はありますが、やや難化したようです。2回は男女とも昨年並みで難度に変化はなさそうですが、実質倍率が緩和していますから、1・2回とも受験生の学力層が上がっているようです。

系列校の明大中野八王子は、各回次合計の応募者数は一昨年が前年並み、昨年は少し増えている、今年は減っています。減少の中心は2月3日午前のA2回と5日午後のBのそれぞれ男子です。1日午前のA1回は若干減ったものの昨年並みで、遅い日程で受験生が他校に流れたようです。女子はA2回が増加、A1回とBがやや増えています。合格最低点は男女ともA1回が少し下がっていて、やや入り易くなったかもしれません。A2回は昨年並みで難度に変化はなさそうです。Bは上がっていますが、4科総合型ですから出題内容との関係でしょう。あまり難度は変わっていないと思われます。なお、同校はもともと明大中野の創立55周年記念事業として開校した関係で「中野八王子」と、地名が2つ付いている珍しい校名ですが、やはりわかりにくいとのことで、2024年度から「中野」を外し、「明治大学付属八王子」に変更する予定です。

法政大学の各回次合計の応募者数は、一昨年は各回次男女とも増加、昨年は逆に各回次男女とも減っていて、今年は男子が各回次とも減少、女子は2月1日午前の1回が昨年並み、3日午前の2回と5日午前の3回が増加しています。男子は少し附属校離れが起きているのかもしれませんが、女子は附属校人気が続いています。合格最低点は1回と3回が少し下がり、2回は概ね昨年並みですが、補欠の発表人数が少し減っていることもあり、あまり入り易くはなっていないようです。

中央大学附属の各回次合計の応募者数は、一昨年は減っていましたが、昨年、今年と少しずつ増えていて、男子は2月1日午前の1回、3日午前の2回とも昨年並みですが、女子は1回が少し減り、2回は目立って増加しています。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、1回は実質倍率が男女とも少し緩和しています。出題内容との関係もありますから、難度は昨年並みでしょう。2回は実質倍率がアップ、少し難化したかもしれません。

成蹊は一般入試と国際学級入試を行っていて、さら

に2月1日午前の1回に国際生枠を設定しています。各回次合計の応募者数は、一昨年は前年並み、昨年はやや増えていて、今年は少し減っています。減少の中心は2月1日午前の1回の男子と4日午前の2回の女子です。合格最低点は2回の女子が下がっていますが、実際の受験者数が減った影響でしょう。少し入り易くなっていますが、それ以外は上がっていて、受験生の学力層が上がっているようです。やや難化したかもしれません。

独特な存在の創価は、2月1日午前のみ入試です。昨年から4科の他に国算英も選択できるようになっています。男子の応募者数は、一昨年、昨年、今年と少しずつ減り続けていて、女子は一昨年は減少、昨年は若干増えて、今年は再び減っています。合格最低点は公表されていませんが、男女とも少し入り易くなったかもしれません。

明治学院は、一昨年まで各回次合計の応募者数の増加が続いていましたが、昨年は少し減っていて、今年は昨年並みです。実際の受験者数、合格者数も昨年とあまり変わりません。ただ、2月1日午後の1回は男女とも合格最低点が下がり、4日午前の3回の女子は上がっています。男子や2日午前の男女は昨年並みでした。3回の女子は得点分布の関係でしょう。2回も男女ともに難度に変化はなかったようですが、1回は少し入り易くなったようで、昨年難化していましたが、難度が戻ったようです。

玉川学園は国際バカロレア(IB)クラスを持つ学校です。今年はIBの帰国生入試の日程が変更されています。各回次合計の応募者数は一昨年は若干減っていましたが、昨年は増加、今年もやや増えています。実際の受験者数も少し増えています、合格者数は昨年並みです。合格最低点は例年未公表ですが、例年並みの難度だったようです。

東海大菅生は医学・難関大コースと総合進学コースの2コース制でしたが、総合進学コースは一貫進学コースに変更しました。また、2月1日午後の4科入試、2日午後の英語入試を取りやめました。入試結果は両コース一括での公表です。各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年は前年並み、今年は減っています。合格最低点は概ね昨年並みですが、一部に上下している回次も見られます。ただ、不合格者が少なく、難度は変わっていないようです。

国立音大附属は、音楽のプロを目指す音楽コース、音楽教養のコース、一般的な文理コースの3コース制で、文理コースには特選クラスもありましたが、音楽コースを創作・演奏コースに、音楽教養コースと文理コースを統合して総合表現コースに再編しました。同校も小規模な入試の学校です。各回次合計の応募者数は少し減っていて、難度は変わっていないようです。

帝京八王子は小規模な入試が続いている学校で、今年は2月4日午前・午後、6日午前の入試を1日繰り下げ、2月13日午前の入試は1日繰り上げました。本稿執筆段階で入試結果未公表でした。

系列大学があっても附属校カラーが薄い学校では、帝京大学は特に入試に変更点はありません。一昨年は各回次男女とも応募者が減りましたが、昨年は各回次合計ではやや増えていて、今年は少し減っています。減少の中心は2月2日午前の特待選抜の女子で、男子や他の回次の男女は昨年並みの応募者数です。合格最低点は特待選抜が下がっていますが、出題内容との関係でしょう。他の回次も含め、難度に変化はなかったようです。

桜美林は曜日の関係で帰国生入試の日程を1日早めるとともに、2月2日午前の総合型入試を1日午後に移して2科入試と並行実施とし、定員配分も一部見直しました。各回次合計の応募者は昨年まで3年間減少が続き、今年も減りました。特に今年は2日午前入試がなくなったため、実質的に入試回数削減での応募者減少です。近年合格者の入学手続き率が上がっていることからキャンパシティの関係で入学者を絞るための措置ですが、実際の受験者数は、応募者数の減少ほどは減っておらず、高い人気が続いています。合格者数は昨年をやや下回っています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度面では昨年並みか、やや難化しているかもしれません。

東京電機大は今年も特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は、一昨年の増加、昨年やや増えていて、今年はさらに増えて人気が上がっています。ただ、2月1日午前の1回と2日午前の3回は昨年並みで、増えているのはもっぱら1日午後の2回と4日午後の4回で、併願受験生が多くなっています。合格最低点は3回の女子4科が下がっていますが、得点分布の関係でしょう。2科や男子の2科4科、他の回次は昨年並みで、難度は変わっていないようです。

工学院大附属は先進コースとインターナショナルコースの2コース制で、帰国生入試の一部変更のほか、英語入試で英国選択を新設するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は、合格者数が少ない科目選択で一部下がっているものが見られるほか、2月1日午後は昨年並みですが、他の回次は上がっているものが多く、全体的に少し難化した入試だったようです。

武蔵野大学は帰国生入試の日程と、適性検査型の定員を変更しました。2019年の共学化、校名変更で各回次合計の応募者数は大きく増加、それ以後一昨年のみ少し減ったものの、昨年、今年と再び増加して人気が上がっています。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、実際の受験者数や合格者数はあまり変わっていませんので、難度は昨年並みでしょう。

日大第三は、入試の日程や科目に変更はありません。各回次合計の応募者数は、一昨年は少し増えていて、昨年は前年並みでしたが、今年は減っています。2月1日午前の1回は昨年並みですが、2日午前の2回は女子が、3日午前の3回は男女とも減っています。ただ、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度は変わっていないようです。

多摩大聖ヶ丘は各回次の定員配分の変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と増加が続いて人気が上がっていましたが、今年は昨年並みで、人気は一段落です。2月1日午前の1回と5日午前の5回はやや下がっていますが、出題内容との関係でしょう。他の回次は昨年並みですから、全体的には難度は変わっていないようです。

明星は特選と総合の2コース制です。2月3日午後に特選入試を新設、6日午前の総合入試を4日午後に移すなどの変更がありました。一昨年まで各回次合計の応募者数は増加が続いていましたが、昨年は減少、今年は増えて隔年的な変化になっています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、本稿執筆時点で合格最低点が公表されていませんが、特選、総合とも難度は昨年並みでしょう。

独特な教育方針の和光は、2月2日午後の2回を3日午後、4日午後の3回を13日午後に変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年の前年並み、昨年は

減って小規模な入試になりました。今年は昨年並みです。合格最低点の一部下がっていますが、全体的に難度は変わっていないようです。

純然たる進学校では、穎明館は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は隔年で増減していて、今年は順番通り減っています。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は増えていて、帰国生入試は合格最低点が上がっていますが、得点分布の関係で、難度は変わっていないでしょう。一般入試では2月2日午前が下がって、少し入り易くなったようです。他の回次は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

開校5年目に入るドルトン東京学園は、曜日の関係で12月の帰国生入試、オンライン帰国生入試を1日前倒しにしました。各回次合計の応募者数は開校以来3年間増加を続けましたが、昨年、今年と減っています。難度が受験生に周知されてきたからでしょう。今年は実際の受験者数も減って、合格者数もやや減っています。合格最低点は2月1日午前の1回が上がっていて、少し難化したようです。他の回次は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

八王子学園は東大医進と一貫特進の2コース制です。今年は各回次の定員配分が一部変更されています。一昨年は各回次合計の応募者数がやや減っていて、昨年、今年は前年並みが続いて安定しています。実際の受験者数も昨年並みですが、合格者数はやや減りました。合格最低点は1日午前の東大医進が上がり、2日午前の東大医進適性2回と2日午後の東大医進は下がっています。他の回次は昨年並みです。東大医進は合格者が少ないため、得点分布の影響が大きいのでしょうか。難度はあまり変わっていないようです。一貫特進の入試は3日午後だけで、こちらは昨年並みの合格最低点ですから、東大医進からのスライド合格も含めて、こちらも難度に変化はなさそうです。

I C Tの利用を積極的に進めている聖徳学園は、3回実施している帰国生入試の日程変更のほか、2月1日午前の国算英から2科の選択入試を取りやめ、3日午前入試を2科から英語を含む選択に変更、定員配分も見直すなどの変更点があります。各回次合計の応募者数は、一昨年は少し増えていて、昨年はかなり増えましたが、今年は昨年並みで、人気落ち着いてきました。合格最低点は1日午後の奨学と11日午前の3回が少し上がっていますが、合格者が少ない入試だけ

に得点分布の影響でしょう。他の入試は昨年並みですから、全体として難度は昨年並みだったようです。

独特な教育方針の明星学園は帰国入試日程を変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年は増加、昨年は前年並み、今年は再び増加して段階的に人気が上がっています。実際の受験者数も少し増えていますが、合格者数は昨年並み、実質倍率はやや上がっています。合格最低点は公表されていませんが、難化するほどではなかったようです。

インクルーシブ教育の武蔵野東は、多彩な入試科目の学校です。今年も日程による科目の配置などの変更がありました。各回次合計の応募者数は増えていて、小規模な入試を脱しています。合格最低点の一部上下も見られますが得点分布の関係で、難度も昨年並みでしょう。

国立の東京学芸大小金井は、一昨年は女子の応募者が増加、男子も少し増えていて、昨年は男女とも少し増えました。今年は男子が昨年と同じ応募者数で、女子は減っています。今年も補欠が出ていて、難度はあまり変わっていないようです。

帰国生教育が特色の啓明学園は小規模な入試の学校で、今年は2月1日午前に適性検査型を、1日午後には国語4技能入試を、2日午後にプレゼン入試を新設、他に英語入試の科目変更などがありました。各回次合計の応募者数は今年も少し減って小規模な入試です。難度面は特に変化はなかったようです。

八王子実践は、2月6日午前午後入試を5日午前午後に移しました。もともと小規模な入試の学校で、今年の各回次合計の応募者数は昨年並みです。難度も変わっていないようです。東星学園は2月1日午前の4科を取りやめ、1日午後の1科入試と2日午後の2科入試の科目を入れ替えました。各回次合計の応募者数は昨年並みの小規模な入試で、難度も昨年並みだったようです。

自由学園は独特な方針の学校で、入試は小規模です。今年は帰国生入試の日程を変更しました。各回合計の応募者数は減って、今年も小規模な入試で、難度も特に変わっていないようです。なお、同校は珍しい男子部女子部の別学ですが、2024年度から共学に移行すべく準備しています。